令和８年度第２回　豊川市地域包括ケア推進協議会　要旨

開催日時：令和８年９月 17 日（木）
15：00～16：30
開催場所：豊川市役所
本 31 会議室

議題　豊川市高齢者福祉計画中間見直し・豊川市認知症施策推進計画策定について

＜事務局説明＞

豊川市高齢者福祉計画・豊川市認知症施策推進計画について、素案をもとに、第1章～第3章までの説明。

（委員A）

・1 ページ目。第1章、計画の位置付けの（1）策定の背景のなかで、「65 歳以上の１人暮らし」と表記されている箇所があるが、他のところはひらがなで「ひとり暮らし」と表記されているので統一した方がよい。
・同ページ。「医療・介護連携の推進」とあるが、「医療と介護の連携推進」の方が分かりやすい。
・7 ページ目。「第 10 期介護保険事業計画との連携、調和は今回の中間見直しにおいて図ります。」とあるが、言葉が抜けているのか、文章的に分かりづらい。
・15 ページ目。「東三河広域連合の第 9 期介護保険事業計画」とあるが、第 9 期ではなく、第 10 期と思われる。
・31 ページ目。「中心介護者」という言葉があるが、「主な介護者」など、一般的にも分かる言葉の表記が望ましい。
・34 ページ目。段落がずれている関係で文章が整っていないので、修正を依頼。
・47 ページ目。「免許返納を進める」とあるが、「免許返納を勧める」の表記の方が望ましい。

→（事務局回答）

・確認の上、適宜修正する旨を回答。

＜事務局説明＞

豊川市高齢者福祉計画・豊川市認知症施策推進計画について、素案をもとに、第4章～第5章までの説明。

（委員B）

・72 ページ目。（5）の医療・介護関係者の情報共有の支援において、電子＠連絡帳の目

標値の新たな指標として、累計登録患者数を設定しているが、利用者数や記事数など、別の指標の方が適しているのではないか。また、今、指標としている累計登録患者数は自然増加で目標値を達成できそうなので、より高い目標値のほうがいいと思う。
・74 ページ目。(8) 地域ケア会議の開催について、個別ケア会議の開催数や参加事業所数というような目標値を設定してみてはどうか。
・82 ページ目。(4) b・個別避難計画の作成において、新規作成だけでなく、必要に応じた見直しに関しても今回の計画に加えてみてはどうか。
→（事務局回答）
・一度、事務局で確認し、修正箇所をふまえた対応表を作成し、委員に提供できるようにする。

（委員C）
・資料内の言葉で難しいものがあるので、言葉の説明を文面に追加してほしい。
・58～59 ページ目。実績値の数値が入っていない箇所があるが、なぜか。
→（事務局回答）
・専門用語も多いので、説明文を追加する。
・数値が確定していない箇所は空欄になっているので、数値が出次第、記入する。

（委員A）
・言葉の注釈はぜひお願いしたい。例えば、54 ページのフレイルという言葉にも注釈がほしい。
・同ページ。図の成年後見支援センターの箇所で、代行ではなく、財産管理や身上保護という言葉に修正してほしい。
・70 ページ目。「高齢者の急変時にも、本人の意思（も）尊重された～」とあるが、「本人の意思（を）～」にした方がよい。
・63 ページ目。目標値が実績値より低くなっているところがあるが、なぜか。
・64 ページ目。「運動器機能向上」という表記が分かりづらいと思う。
→（事務局回答）
・文章の誤植、修正依頼があったものについては、適時修正する。
・市が主催する教室よりも、地域の活動の支援に力を入れていく方針。それらをふまえた全体数でみれば、目標値はあがっている。その旨の説明書きを追加することも検討する。
（委員D補足）
・「運動器機能向上」でも意味は通じるが、一般の方からしたら、専門用語っぽく聞こえるかもしれない。「運動器の機能が向上」という言葉の方が分かりやすい。

＜事務局説明＞

豊川市高齢者福祉計画・豊川市認知症施策推進計画について、素案をもとに、第6章～資料編までの説明。

（委員B）

・60 ページ目及び 85 ページ目。地域型訪問サービスとちょこっとサポート事業について、この 2 つは、主体がシルバー人材センターで、かつ内容が似ていると思う。そんな中で、ちょこっとサポート事業は目標値を増やしているが、地域型訪問サービスは増やしていない。この違いは何か。

・91 ページ目。認知症に関する市民の理解の促進ということで、オレンジライトアップ、オレンジ啓発事業があるが、実績値と目標値が変わらない。変わらないなら目標としなくてもいいのでは。また、目標値を変えない理由があるのか。

・101 ページ目。ｇ・介護者家族交流会の文言で、「ケアマネージャーの皆さんへ、周知の協力をいただいています。」とあるが、他の文言と締め方が異なる。「協力をしていただいていきます。」のような締め方のほうが、統一感がある。

→（事務局回答）

・地域型訪問サービスは、介護保険の中の事業で、介護保険で総合事業の対象者と認定された方に対して、シルバー人材センターの職員が生活支援のサービスに入るものとなる。一方の、ちょこっとサポート事業は、誰でも使用できる事業となるため、地域型訪問サービスより、今後の利用者数は増える見込みで目標値も増やしているが、数値については改めて確認する。

・目標値については改めて確認する。

（委員A）

・93 ページ目。ｂ・チームオレンジ活動の説明文で、「～構成されてます。」とあるが「～構成されて（い）ます。」の方が適している。

・96 ページ目。基本施策 3 のところで。「本人の能力や意志」とあるが、「本人の能力や意（思）」が望ましい。また、同様の箇所で、「中核機関の設置」とあるが、豊川市は、令和 6 年 4 月に中核機関を設置済みなので、「中核機関の運営（または運用）」など、別の言葉が望ましい。同ページ。（1）の ａ・「認知症があっても個性と能力を生かし～」は「活かし～」が望ましい。

・98 ページ目。ａ・豊川市民病院サポートチーム連携事業とｂ・認知症初期集中支援チームの説明文が同様のものになっているので、修正を依頼。

・100 ページ目。「令和 5 年 12 月現在 14 箇所」とあるが、すぐ下に令和 7 年度の実績値があるので、そちらを記載したほうがよい。

→（事務局回答）

・確認の上、適宜修正する旨を回答。

＜事務局説明＞
その他の資料について説明。他に委員からの意見の確認。

（委員E）
・歯科医師会からの内情報告として。口腔機能低下症というものがあるが、子どもの頃に口腔機能が獲得できていないと、高齢者になって、口腔機能低下症やその前段階のオーラルフレイルという状態になりやすい。豊川市では、歯科医師がそのような方たちに対し、どう対応・治療していくか、まだ受け皿になりきれていないので、講演会やセミナーを通じて、そういう方たちの手助けができる受け皿を整えていきたい。

（委員F）
・高齢者の交通事故防止に関して、免許返納を勧めるため、バス券やタクシー券を配布するというように、事業の形をとっているものもあったと思うが、最近あまり聞かない。普及・啓発もふまえて、今回の計画にも含めたり等は検討しているか。
→（事務局回答）
・公共交通を管理している部門と常時連携しながら、啓発も含めて検討していく。

（委員G）
・地域のささえあいフェスティバルには、委員として参加をするのか。
→（事務局回答）
・参加義務はない。都合がつけば、当日ぜひお越しいただきたい。

（委員H）
・積極的に目標を掲げていくのは素晴らしいことであることは前提としているが、その分、介護施設で働いている人をはじめ、関係者が疲弊してしまえば、逆にマイナスになってしまうこともある。いい意味で緩い目標を立てることも一つかと思う。

（委員I）
・根本的なことになってしまうが、お年寄りでも認知症の方でも、支えるだけでなく、当事者に地域で活躍してもらうというような観点も、今後必要になってくると思う。できることはやってもらうという考え方のほうが、当事者にとっても社会にとってもよいと思う。

（委員J）

・カスハラ対策として、介護保険サービス事業所をはじめとした事業所から、サービスの中止や利用契約の解除というような相談が、市に入ってきている事例があれば教えてほしい。

→（事務局回答）

・件数把握などはしていないが、話として聞いたことはある。しかし、毎回報告を受けているということはない。

（委員K）

・高齢者の方や認知症の方、ご本人も大事だが、家族をはじめとした、それを取り巻く支えている方のケアも大事だと思う。

（委員L）

・市としても、高齢者の就労支援には力を入れている。高齢者の方が、いきいきと活躍できる場所を、今後しっかり作っていきたい。

⇒出された意見を踏まえて、豊川市高齢者福祉計画・豊川市認知症施策推進計画の内容を見直し・検討を行い、加除修正をしていくことが確認された。